## 私とお雛様　　升村　登美子　記

私は昭和１０年の１０月に父菊之助と母志津子の長女として生を受けた。両親は結婚して５，６年子供に恵まれず心配していた。当時は　三年子無きは去れ　と云われた時代　あせっていたらしい。母は八田与一（台湾のダムの父）の妻の外代樹の妹で米村病院（胡桃町）が里であった。待望の子供の生誕でとびっきり大きな座敷の天井までとどく段飾りのお雛様が初節句に届いたとか……それを戦前に飾っていたらしい。女らしくなかった私はあまり雛祭りの行事や御馳走に関心がなく外遊びばかりしていた。戦争が始まりお雛様も飾る余裕もなくとうとう戦時中に尾張町の道具屋に売られた。ショーウィンドーに並べられた内裏雛をうらめしく眺め別れた記憶はある。男の従兄弟共は私のお雛様の刀でチャンバラごっこをしたとよく話していた。私は　それにまじった記憶も眺めていたことも覚えていない。戦中終戦後は当分お雛様どころでなかったが両親は戦時中に売ってしまったことを申し訳なく思っていたらしい　床の間に雛人形の軸を掛けて高校時代は過していた様に思う。そんな折　父の母方の里　山川家（雉の香炉を美術館に寄付した家）の家が江戸村へ引っ越すことになった。　そこで蔵の中の道具は山川美術財団として雉と共に貴重なものは皆美術館に寄付したが山川家に子供が居なくおじい様が私の父を実の子の様に可愛がっていた関係で美術館行き以外のものを親せきで分けることになり東京・小松・能美あたりの親せきが集まり仲良く分けたらしい。しかし御殿造りのお雛様は飾るにも収納にも場所をとり、狭い家の人には引取れず結局父の母のものだったし蔵もあり収納も出来ると云うことで父が円満に引取ることになったのである。両親も若かったし私も手伝い苦労して組み立てた　その後何回か出し入れしたが　今は大変で出しっぱなしになっている。

私が結婚してから弟が亡くなり素谷家の後継者が居なくなり私の二女を養女にし両親は小さい頃より孫を自分の子供の様に育ててくれた　２０才を過ぎて見合い結婚し次男の方だったが養子は否といわれ仏壇と墓しかない家だしと主人も嫁に出すことに同意し結婚させたが　祖父母や素谷の家を愛して掃除管理を手伝ってくれていた。しかし　その娘も一昨年喉頭癌で５３才で死亡し又後継者が居なくなった　次女が亡くなる一週間程前に外孫の所に女の曾孫が生まれたので初節句にこの由緒ある御殿飾りの雛様一式を譲る決心をしたのです。長男の所は男の孫１人だし年齢的に今後女の子が生まれる確率も少ないし生まれても管理する気もなさそう　三女も独身主義なので外孫の嫁の実家が宮城県の柴田郡で一寸広い家だしお父様がとてもまめな方なので当分管理して下さるし外孫は古い物が好きで大切にしてくれそうなので自分の余命のことを考えて、それが一番良い方法と考えゆずる決心をしたのです。三月三日の初節句は宮城でやり四月三日の初節句は金沢です。両祖父母と私（曾祖母）両親曾孫の合計八名で湯涌温泉で遊び伝達式をやりました。わいわい云っていましたのにまだ尾張町に飾ってあります雪もなく季節の良い時に長男と長女と私の三人と二台の車で移動予定です。宮城の受け入れ体制もお聞きしてからと云うことです三月中に運ぼうかとか云っていたのに大荷物だし相手の都合も聞いてと云うことでまだ尾張町に飾っています。